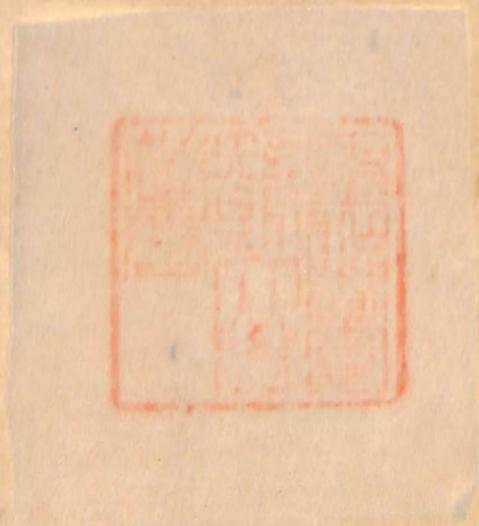


911.3
八

芭蕉の言人志蹟
三
地



赤松乃天明六年此種阿言の粟津義仲寺に傳る

所風は沙やなくこ是國母來り寧ろ府まると此つる

わゝ家り旅ね一は此あ原報くるふを寺の什物の

舟母芭蕉翁れ舊きとのまをそと回すもの一の空は

まは棹の本乃杖あり二のたらしまとの在せれ門人

筆をあつたるわりのとつ舟ふを來ハ唐土此男と一の

かゝお土州と大和乃如又家れなるらうよとが所は

10 殺しを一本の杖に

遠近を以て餅持に里拙許

樹の舟に流るる漕運くさ

観の舟と伸する之流の月九

燐の煙を市と海をよす詩

1 藁の埴よ燐の笑より之

1 アハル 蕙庵の有り成僧寺に九

1 池の舟の影に杖を懸け許

1 流の煙に杖を打つる私語之

Handwritten text in cursive script, top line on the right page.

Handwritten text in cursive script, second line from top on the right page.

Handwritten text in cursive script, third line from top on the right page.

Handwritten text in cursive script, fourth line from top on the right page.

Handwritten text in cursive script, fifth line from top on the right page.

Handwritten text in cursive script, sixth line from top on the right page.

Handwritten text in cursive script, top line on the left page.

Handwritten text in cursive script, second line from top on the left page.

Handwritten text in cursive script, third line from top on the left page.

Handwritten text in cursive script, fourth line from top on the left page.

Handwritten text in cursive script, fifth line from top on the left page.

乳
吟
作
世
の
結
つ
る
ま
じ
ら
し
く

名
邦
通
示
世
の
形
に
塵
く
は
り

凡
美
戸
細
明
無
一
所
許

凡
此
世
の
事
を
掃
け
た
道
に
全

凡
此
世
の
事
を
掃
け
た
道
に
全

凡
此
世
の
事
を
掃
け
た
道
に
全

凡
此
世
の
事
を
掃
け
た
道
に
全

二十乙
内七
〇七

武陽道意存秘



武陽道意存秘

此よりなる事相つて事や 蟬吟

のよ

いふゆゑに事相つて事や

藤堂氏筆

依西堂字附湖南

義仲寺

サカサカ
輝以經冊 一枚

長く
標丸古歌經冊 一枚

花蕉点歌帖 一卷

古

藤堂氏藏原良新

曰 家父又子の歌をたう命を
明し

字乃矢や又子れととあるは

草多めとて母を記し力存 子立

いし碑本元あゆみせいつん花紙 奏

拾穂軒季吟老人真蹟三物詠帖

洛陽古靜寄進

和款

舟与书静锁去

窗海碎金吹去

七
老襟灯片去

消与枕叶去

心与流为磨

信

拟筆
去

繫船蘆荻間蓬
底睡眠閑林葉
逐風到良疑雨
出山
直愚出

蕉翁參禪之師佛頂和尚詩偈

同 引導之僧直愚上人詩偈

寄附主 義仲寺門前住人若山應澄

直愚上人詩偈

少也如年下也
一可也之古也
長氣一うりれ
了了之也
其成何也

了了之也
了了之也
了了之也

公刊會見書卷下と云く手紙

安永子十月壽附

伊賀浮流

之...
...
...

者

しる...
...
...

...
...

...
...

...
...

...

...
...
...

...

...

...



先師の懐舊

此れを枯池をカケヨリクニ不返の
蓮よりつるいさむりより二十七条
こそわしもの尾花うちまなむ
おのろまろみそをいらいらこ
おのふつくしせし物こよ年
おぬる今俳歌のすしこま
おとぬるすしこをいんたま
しとるあまの洞つひ
らんさびみつひて断 枯池花
そらとるあまの洞つひ

いけのつらんこいんあまの洞
をいんすしを

山半後

伊文すけの法

伊陽城下

山岸棟室の傳

けりるをわたりておはるは縁の
うらやまの心はなほなほ
周の心はなほなほ
居る心は志の心は
下作と縁の心はなほ
今をわたりておはるは縁の
心はなほなほなほ
心はなほなほなほ
心はなほなほなほ
心はなほなほなほ
心はなほなほなほ

切に
九
心

心

上方

心

配刀書翰之切

孫

何某清三寄附

喜米句

古月舟のりぬきさきさき
も白見す月 是る事知る
え祿のノ板

百歳子集 何某言也
青々名々

らきあきらき麻はよとら
いふことくはれい
妻恋し麻は物や花はけ
終白花しし況れ自朝霞を
よけく古字よかす
亦良政也いふおとらくか誰子也
或之

喜米句

伊場 清氏流

初書也此其一二其のり
一

曾祖又吉世撰筆跡

田中長英寄附

物敬事のき風寒の久
至小上りきき世重なり海行

奉附

古宮秋庭冊極致

祖父槐市筆跡

伴陽城下

中尾如風

及打紙寸一尺く板の葉川 一尺

山多の海行名やわきり

尾頭志讀 寄附

修架上座

十束一軒



芭蕉翁	又
正木	又
村叡	三
式之	五

名木筆 曾孫
 為寄附
 半欽仙句類也

精紙

甚く〜末を海り野に

病乃以ととふ家舞力乃種前

知月夜あるを能たやしく遊りて

七女乃煙之のふまへの志つと

半欽仙句類也

さくくろくろくたてに替うはうろく
燭を力ふまも出たしやうと
残しと地らとさくらみ村
燧うしとくろくしてまのつら
おしん ~~神楽~~ 空席 もぬろり
じくぶ解おのるあはあ方ひ
若 感

湖の長舟と舟人
揚指力こし ~~船~~ のあはとぬろり
お撲まきしげてそりもろり
みけいん成村のり
おしん ~~神楽~~ 空席 もぬろり
若 感

昔難波の浦

難波乃夫婦す三

ゆきさるぬらぬゆきよんかたーく芳
ハこらーくーくさわーの屋のあま
くき書よとの言ぶぬらとーしなまほ
まなんとつとえらるるて賊とついで
きちんとのりりのを紙ハそのまあんと
さうゆきさるのりらぬく書ハあんと

ちきんよめさるい、みーき連ののよ
えつけゆーかハ秀ハわさゆーさい風情
力なまよあーとあらゆーかほしと
同くさる

毛らうてあーちりちりてあ

ゆーちめはの浦ハ行ーま

ときさるゆーかハせしあくるきあー

あーあしーとてそをきさるハあきーか

いーく難波の浦ハ行ーま

かき返す一節一節あつたりの海草を
つきの口をくわひておろし
しゆらめく

丈草禪師手跡 取書切

寄附

湖南 青岢

尚白曾孫
江九車寄附

尚白曾孫

江九車寄附

秦納平那
角上
真跡

西湖堅固本福寺
曾孫蒲香坊北角



筆力筆
ちりふふ
うんしん

角上
しん

拓部
部
焼
子
子

松林より化移る世や牛馬乃こ

岩城村といふあり船よりせありうき
月流半の村くさくさく人あきさか
はるみおれさく男志のそちと何さ

伊藤お山あのみさく乃白き

会場へちあめ是て船を被つると細さ
米流ぬ水干浜春も有月待乃舟は下
あかり月流をつく一柱を柱とほをさ
さくらふ乃橋負由ちく乃くさく一舟

あきさく

よこの岩城の船あり

あきさく
ちのさく

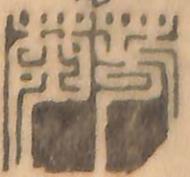
一谷えてとる家日花秋のしせ

竹青堂正秀の田録より

あきさく

湖南栗津松本

徳長



あちこち

き



早々

ち月



歌乃杉瑞ふつや梅花乙刈

智月画賛
乙刈短冊
歌乃
西米津
可風
舍才
江雨寄附

奉納酒堂珍碩筆跡

湖南松瀉菴巨洲



水玉と魚えり

形通しりりき

申うれ沢舟を

推無子の旅を

ゆて

切旅よ歌尺公七よ

本紅印

夜行馬

淨一 敬真宗の官徒と

のを 廿二 壽佛 志

流 如 然 之 也 以 心 心 心 心

心 一 信 心 心 心 心 心 心 心 心

法 志 心 心 心 心 心 心 心 心

皆 之 故 國 於 華 心 心

百 能 住 心 心 心 心 心 心

心 心 心 心 心 心 心 心 心 心

の 心 心 心

心 心 心 心

心 心 心 心 心 心 心 心 心 心

天曆元祿七年

早 子乃日

法南何浩劫通



路通文章一篇
唯泉寺魯江寄附

歲暮

筆行

昌房

昌房手迹
昌房為孫
破田雨橋
寄附

安のそふ精 雲の如く

以是是枝所見の如く

う揚り出らぬ如く記の如く

とらふと自らをたふす

初と出るに折所下りて

散りて記の如く

う水と雲の如く

著呂曲翠華物

著述主曲翠華女孫

安具幸橋母

又水と雲の如く

う水と雲の如く

其の香

福

福

一

一如子



其香筆

乃為人書
〜〜〜

國分山舊菴額寫三字

湖南 福田五来寄附

人

一 方 方 一 包

去 年

一 む じ ゃ ー の こ

一 袋

た ら 又 多 ね へ 何 り へ 何 々 何 々

め ー ー ー

江 々 々

米 倉 市 之 書 也

其 書 子 治 名 書 也 記

東 洋 臨 州 寄 附

五 老 五 維



Handwritten text, possibly a title or description, written vertically in a cursive script.



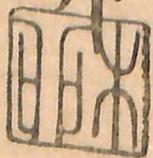
許六山水之画
寄附湖東
島瓢

ふんばくふんばく
ふんばくふんばく
ふんばくふんばく
ふんばく

四 霖 序 短 冊

安永十辛丑正月寄附

摘孫木卯



臘八や火傷よつと
心平乃沈木導

木導 埋火短冊 寄附

湖東 土田任人 曾我塘里

久しき所をなほよむるもやはるる思はれ
 葉のよもよもひつらん思の書 之角
 むしーひ日家法つ七世しなりのし
 神しふふもこらるるは後分りて
 せふ母のよふいれおあつりつ
 あしあふてれ九そーあまをまかっ
 みまゆるともうさひーことす
 志つりあま
 免てしたるや思れ一床も新顔そん 素堂
 み位のかろまこころ文想とれ川 汶村

汶村 韻塞集之内
 奉納 江品川瀬と店 野村正光也

何をまかして
 中玉の
 神人まら
 らしき
 何をまかして
 中玉の
 神人まら
 らしき

白櫻史自筆葎句二章濃為某氏寄進

露行

白ぬすたるもの終りぬ馬の上
ゆふらちを月のみすぬる物場
何しつ門を敲て秘して暮らゆ
土友の勤母事女へかむむと惘襟
かこむ柘李よふすまこと松菊は
香まじも自徒り色を照し
風むあまの雲霞吹きよに

我と客の家はつるよの心まな
旅泊乃骨をゆき

この柱なごし可らて夕ら

夕ぬめ存和田の園敷る子遊
暑もあつて風吹増しき
冷也敷き山薬玉品乃片端を
はすんで甚么とくま

裸乃吹き下らぬ

七夕

新見

はたしきるんうよよりしひ

名目

名目や平あふいしるん

西のうらまはれおはし
はあしひのさぬし一
とやまひしすし
りのまはしし

松平の事

子川

とらわすし
松平

美雪堂



美雪堂

日あけ
松平の事

けあ

郭 云 柱 爲 子 向 底 跡 也

十六夜也

荊口

古名也

斜峯

名月也

松茸也

子川

昔北条子

以節

郭 云

跡也

濃州垣城下

久世有南畝跡

和 云 此 傳 以 子 爲 名 向 底 跡 也 尾 及 佐 屋 記 白 滝 畝 洗 耳

蕉門月空庵露川居士墨跡寄附
江州芭蕉堂

尾及佐屋記白滝畝洗耳

正
休念のまふり
知人

半一り

方

三方より
波の

中矢

一

むよ海世我酒白く食志
眼をこらす陽その
瘦一晶

秀彦
童子傑をとり
唐梅其南

蕉門越人墨跡奉納江州芭蕉堂

尾別佐屋沢旭天舎寄潮

掃の中
か

先師花や梅の小事都の事乃日風保
自是

念点乃道端もよも七路も形

海峽

高祖知足又辨寐照曾祖風紀又辨蝶羽祖鉄史
又辨龜世皆親受北蕉翁之教沂風師来需手澤
因北藏諸美仲寺裡昔蕉堂
天明三年癸卯春三月 鳴海學海識



七十にひらふの里のおきと
後集のどの白とわて七ノノ
蓬萊のそととや家と彦とり 白雪

白雪の筆

蓬萊の叢句

白雪末孫冬何新城太の芦帆奉納之

繫榮幕下大怒垂幕不見衆人皆懼靜當刑矣夫人
為謝曰昔日大君戰平軍於土肥相山君軍不漂於總房
之間時妾適在十足柄山其愁子彼獨無請勿罪焉其忠
貞操可見矣不如而已鈴木三郎重家者欺赴于高館伊藤九
郎祐清者辭飯于京帥共得其死然是教人者爾同世
也咨爾幸免死何不習義於景清忍為臣何不習謀於
兼安不得已歌何不習章早於靜乎靜者岐女況於武臣
耶重家者一旦臣况於世臣於爾與何誅已而評曰朝
音及幕下所救皆忠信之人而非如盛久佞奸者也或曰善
惡平等不洩於一切衆生是佛慈悲也觀音豈無救盛久
乎吞曰然我聞之佛道惡而啟善未聞助不善而增惡者
觀音何為救焉又考東鑑及源平軍記平家臣無主馬判
官盛久別有主馬判官盛遠而無其事也此知後人謗作
其作之者何人乎此之可謂真盛久而已

洛東逸民向井二郎藤原兼時書

志平不志跡盛久傳 市三厚家附

修、丹、乃

い、ち、く、せ

こ、ち、り

下、の、し

凡、北

凡、北、名、紙

捨、舟、乃

考、賈、氏、家、實、形、も、り、子、雙、葉

乞、も、當、寺、の、交、割、点

も、ろ、虎、と、其、象、と、呼、ぶ、也

る、何

滝、終、意

小、書、大、龍、の、後、句、切、一、枚
研、修、は、是、吾、件、も、由、源

上、條、八、人
別、封

昔も今も、いふ所ある所の人の
御も、いふ所ある所の人の
いふ所ある所の人の
いふ所ある所の人の
いふ所ある所の人の
いふ所ある所の人の
いふ所ある所の人の
いふ所ある所の人の
いふ所ある所の人の
いふ所ある所の人の

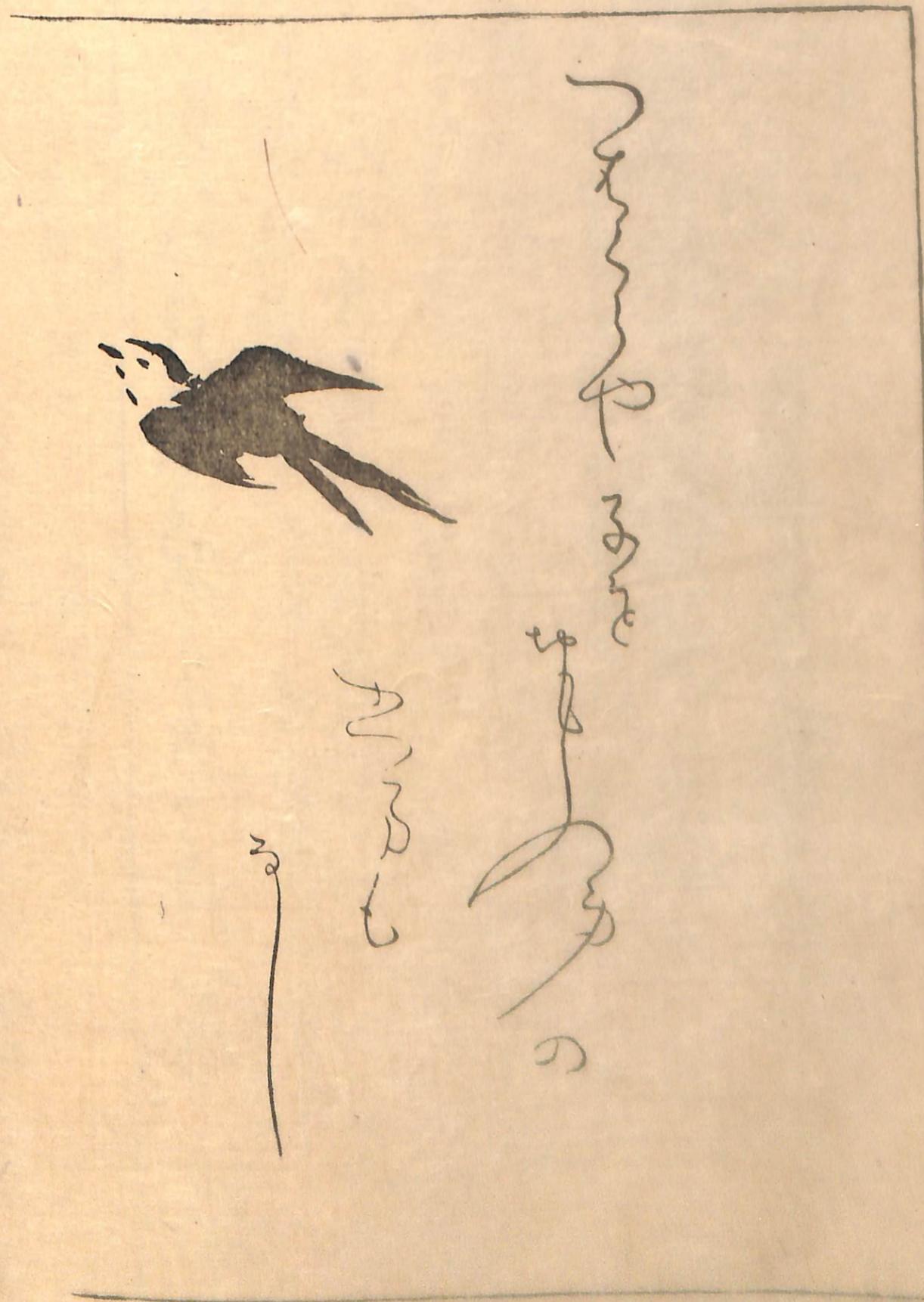
いふ所ある所の人の
いふ所ある所の人の
いふ所ある所の人の
いふ所ある所の人の
いふ所ある所の人の

いふ所ある所の人の
いふ所ある所の人の
いふ所ある所の人の
いふ所ある所の人の
いふ所ある所の人の



鳥

舍羅函讀
浪花大江回國納



鳥

鳥

鳥

鳥

何のみの
梅

梅花佛惟笑師筆 寄附
播府丹頂



大室司
二のひつろ
梅の
梅

従五位下
日土
宮中務少輔
宮中

梅

寄附
神風館涼菴真跡
宇佐八幡宮
由緒

南無山田
林本館洗利

秋之坊癖玄真蹟 加賀
一菊

中幼也 一也 小初 之紙 子世乃 也

加陽令以作小孩也

一矢

加陽金城住小孩一矢之末葉

二矢

〰〰〰
 〰〰〰
 〰〰〰
 〰〰〰
 〰〰〰

柳陰軒句空真蹟原前幻佳菴
 既白之物而既白先故以故今為義
 仲奇之什 平安雲羅

本枯や釣後七うん河海
 以格時心例序
 本はし片に中あうと
 河海

浪蒼公木枯真跡
 其角評越中蟹卧寄附



藤のむす

金魚子

いふ

其角

粟津義仲寺住持沂風上人廣募蕉翁門
下諸子手蹟集而裝之長為寺中寶余亦
捨家藏其角書一紙以充其數

武藏夏成美書



肥は

船

舟

舟



肥は

舟

舟

舟

杉風自字屋形船之吟納

我仲寺

安永八年

今杉風

我仲寺



杉風自字屋形船之吟納

我仲寺

安永八年

編

一編

嵐竹

杉風自字屋形船之吟納

麻尤酒

一樽

史邦

此世之為之也

望

六月日

史邦

李固
蘇六
西雅文

史邦彦之稿

湖東高尾池田

引牛

そしきまふと
かむらのるまきりて
かひいりていふも
しつめかゆき
かぬていふ
よめいふ

そしきまふと
かむらのるまきりて

かむらのるまきりて
かひいりていふも

しつめかゆき
かぬていふ
よめいふ

よめいふ

枯木淡花均與月

遊魂似蝶舞花風

夢中散夢傳子來

直夢方知醒誰識
缺

長生堂主人 本堂書

武藏淺草 夏陽子寄附

江戸
麻の浦
八分
外
中
菊
人
洞
露
沾

内藤下野守政榮
遊園堂露沾短冊

菊乃洞

臣

露寧

寄附

奥書

芭蕉翁遷化ありて俳諧の正法をせり既に
九十年の春秋を歴ねさるゝ今此時と此道の
像法の時なりといふを舞志う深か蕉翁の寫眞
傳燈乃門人といふと母をその叢向のそと
やまりて筆法とんるとも違なかり況や今たり
す来りて一せり世思ん好まるとも何となく

そのまのうなまはるといふ人のまゝあはれ奉りたるを
ついでまの蕉翁のうまはれはり一伊賀乃國の
藤堂受をまの懸とつとつと一近江のいた伊勢
よ尾張一 行旅のつとつあるまのま蔵おとつと
まのその孫の家らつと弟子の門をまの孫おとつと筆
の法をかりまの寄附のまの由毒れ什物とつと
後志人をまのまの友おとつとつとつとつとつとつと

け寺に住持の僧より二年及出遊寺録なるものあり
一石一本をとりてなまんに佳子弟にあつてはとてし
きあにこれのまう老後あふとてまゝに給へり

天明二年寅十月時雨會於義仲寺芭蕉堂前

蝶夢幻阿弥陀佛謹誌



寛政元年己酉春發行

粟津義仲寺藏

井筒屋庄兵衛

橋屋治兵衛

同 儀兵衛

皇都書林

